

海外投資環境セミナー インドネシア経済アップデート

インドネシアにおけるビジネスの潜在力

駐日インドネシア共和国大使館副大使 ベン・プルカサ・ドラジャット

1. インドネシアの経済

インドネシアは、日本からの直行便で約7時間のところにある島国で、面積としては日本よりも少し大きい。インドネシアには約1万7000の島があり、人口は2億4690万人である。これは、中国、インド、アメリカに次いで4番目に大きい。日本は人口が減少しているそうだが、インドネシアは人口が年々増加していて、2030年には3億人になることが見込まれている。

人口の85～90%がイスラム教を信仰し、親切で優しい人が多い。世界で4番目に人口が多く、しかも60%が生産年齢なので、ビジネスチャンスはとても大きいと思う。また、人口の70%は中間層で、日本製のものを欲しがめる傾向が強い。

インドネシアのGDP成長率は、2014年が5.02%だったが、ジョコ・ウィドド新大統領は7%を目標として、さまざまな政策を進めている。G20の中では、中国に次いで2番目に高い経済成長率となっている。

インドネシアがこれほどまでに成長している要因としては、国内市場が成長していること、輸出拠点があること、人件費が安く雇いやすいこと、生産施設への供給拠点があること、企業を支える産業クラスターがとても発展していることなどが挙げられる。他にも、インドネシアはとても豊富な自然資源を持っているので、工場を作るにしても資源が近い。また、政治的に安定しているので、ビジネスをするにはとてもいい場所だと思う。

主な資源は、すず、ニッケル、石炭、金、銅、天然ガス、粗パーム油、米、コーヒー、カカオ、穀物などである。

主要な輸出品の一つである自動車は、90%が日本企業の製品である。スズキやホンダが新しい工

場をインドネシアに造ろうとしているが、国内市場だけでなく、輸出増にもつなげたいという希望がある。また、特に交通渋滞のひどいジャカルタでは、渋滞解消に向けて日本からの支援で地下鉄の計画も進んでいるので、とても楽しみにしている。

ポテンシャルの高い商品としては、富山県には重量機器の技術がたくさんあるので、そういう分野で協力して商品化できればと思っている。

2. インドネシアの政治

インドネシアには、日本と同じくたくさんの政党がある。新しい大統領はジョコ・ウィドド氏、副大統領はユスフ・カラ氏だが、10年前にも副大統領を務めたことがある。

ジョコ・ウィドド大統領は今年3月末に来日し、その1週間前には副大統領も日本を訪れた。インドネシアの歴史上、こんなに連続して大統領や副大統領が訪問することはなく、このことから日本がインドネシアにとってどれほど大切かが分かると思う。

大統領・副大統領の来日の目的は、現在の政権公約を支えるために、日本の支援を求めることであつた。ジョコ・ウィドド政権は、経済発展を目指し、海外からのいろいろな投資を誘致する政策を優先的に実施している。例えば、投資調整庁が中心となり、ワンストップサービスやオンラインサービスなど、インドネシアへの投資をより簡単にするシステムを作り、展開している。

ジョコ・ウィドド大統領は投資を促進することで、インフラや物流、発電施設、海事施設などの発展をより加速させたいと考えている。燃料補助金の削減により財政に余裕が出た分を、インフラ

の成長を加速させるためにもっと適切な分野に充てることが注目されている。

3. 世界の評価

インドネシアはAPECから、最も多くのビジネスチャンスを持っているという評価も得ており、国連貿易開発会議の調査によると、投資先として世界で4番目に期待される国になっている。それだけではなく、ASEANの中でインドネシアが一番魅力のある国だという調査結果もある。いろいろな調査で、インドネシアはポジティブな見通しを示されている。

4. インドネシアと日本

インドネシアは今後15年でかなり経済成長し、ビジネスチャンスがたくさん生まれると思うので、他の国に遅れないよう、富山の企業の方々に紹介したいと思う。

インドネシアでのビジネスが成功する理由は、日本はインドネシアにとって最も信用できる国であり、似たような特徴があり、長い友好関係があるからだ。インドネシア国民の82%以上が日本に対していいイメージを持っている。インドネシア人は日本人の人柄だけでなく、日本食、日本車、日本文化など、日本のいろいろなことを好んでいる。

国際協力銀行(JBIC)の2013年の調査によると、日本企業にとってインドネシアは海外進出先として最も有望な国だという結果が出ている。さらに、その年においては、日本がインドネシアに一番投資している国となった。2000年代以降は、国別投資額でシンガポールが日本を上回る年が多かったが、1990年代は常に日本がトップだった。インドネシアでは日本の認知度は高く、知らない人はいない。今後とも、インドネシアへの投資をよろしく願いたい。

さて、2000年以降の日本からのインドネシアへの投資実績をみると、かなりアップダウンがあるが、それは日本の経済状況が影響している。日本からの投資の90%は第二次産業に向けられてい

て、中でも輸送用機械が64%を占めている。富山の企業にとっても、この分野への投資が一番適切なのではないかと考えている。今朝、ホテルのロビーで偶然、インドネシアの事業者と会ったのだが、既に富山の企業と協力してインドネシアのビジネスをしていると聞いた。

また、この5年間、日本からの投資の96%はジャワ島向けであるが、他の地方にも魅力的なビジネスチャンスがある。もちろん、ジャカルタ近郊への投資も歓迎するが、できればインドネシアの成長を促すために、地方にも注目していただければ幸いだ。

インドネシアが求めるのは、日本からの良質な投資である。付加価値を創造し、生産性を高め、競争力をつけることを望んでいる。ぜひその分野で富山の方々からの支援をお願いしたい。

また、インドネシアではハラル商品の企業の進出が全く進んでいないので、日本企業と協力して商品をより発展させたい。これもぜひビジネスチャンスとして捉えてほしい。

他にも説明したいことはたくさんあるが、最後に皆様の支援、インドネシアへの投資をお願いして、私のお話を終わりにしたい。

(2015年4月24日「富山県ものづくり総合見本市2015」海外投資環境セミナーにおける講演より)